

「そしある」さん 第12号

2026年10月発行 編集担当：樋口

●人材育成と養成③～“人材と人物と人格”能力は誰のものか～

沖縄国際大学社会福祉専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）は、「高度化かつ多様化する国際社会において必要とされる基礎的技能を修得させ、社会福祉学の理論を基礎に、現場を重視した実践的教育を通して、福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成し、その条件を満たした者に社会福祉学の学位を授与します。」になっている。

そして、社会福祉専攻で求める志願者の要件、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）は、「1.将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。2.社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。3.将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。」とされている。

大学教員として赴任して戸惑ったのは、社会福祉士等の国家資格は取得しない、或いは取得はするが、いわゆる福祉の仕事には就かないという学生が、私が思っていたより多くいるということだった。大学という高等教育の場なのだから、教養を身につけさせ、職業人としての能力を訓練するのは当然なのだが、資格科目担当教員としての、如何にしたら現場で働いてくれる「福祉人材」を養成するかという発想は、考え直さなければならなかった。ウエディングコンサルタントを目指す者、葬祭会社に就職する者、ドラッグストアの正社員、レンタカーの会社員、どれも保健・医療や生活と関係があるといえあるのかもしれないが。また、在学中に資格は取得しなかったが、何年か仕事をする中で、やはり国家資格を取得したいと学び直す者もいる。資格取得の目的や意義は、人それぞれである。

山本敏郎（※）は「人材」「資本」「資源」は、いずれも辞書的には有能な人、能力・才能を備えた人という程度の意味ですが、「ものをしゃべる道具」を連想し、戦後教育政策の文脈でいう「人材」は、経済発展に有益な能力を備えた人間のことです。」「教育基本法には、教育の目的は「人格の完成」とあります。」「人格」という場合には、自分の主人は他人ではなくほかならぬ自分自身であり、存在することが尊重・尊敬されるべきという意味があります。」「人格」という場合、その能力は本人のものです。自分の意志で、自分のために発揮・行使される能力です。」「他人のために能力を発揮・行使する場合にも、指導・支援・ケアを待っている人たちの呼びかけに対して積極的に応答していく。」「そうすると、自分の能力を誰のために、どのように使うのかについての哲学も求められます。」「また、自分の労働が他者の生活を支えて、他者の労働が自分の生活を支えているという社会的関係も意識せざるをえなくなるでしょう。つまり能力の共同性とか相補性です。」述べている。「人格の完成」とは壮大だ。

ちなみに、2015年に国連で採択されたSDGsは、経済成長を前提とした枠組で、人々の生活の質や幸福感という質的側面が評価されていないという課題と限界があるため、人々の「幸福（ウェルビーイング）」を中心に据えたSWGs（持続可能なウェルビーイング）という新しい社会目標の枠組みが提唱されている。それらは、ソーシャルワークの価値や理念に通ずることに気づく。このようなダイバーシティとインクルージョンの時代に、社会福祉学やソーシャルワークを学んだ者は、自治体や企業も含め社会の様々な分野で必要とされる人物になり得るだろう。卒業する学生には、「大学での学びは生涯学習のスタートにすぎません。それぞれの持ち場でソーシャルワークを実践し、自らの能力を発達させ、人格を磨きましょう。これから益々、皆さんが求められる時代です。社会福祉学を専攻しました！ソーシャルワークを学びました！と自信を持って自己紹介してください。」と送り出している。

※出典：山本敏郎、「人材養成」という発想を撃つ」、日本福祉大学同窓会会報、126号、p9-10

●MSWのつぶやき（編集後記）：就職先を迷っているという学生の悩みは、「遠くて、、実家から通いたいけどガソリン代がかかるし、初任給ではアパートは借りられない。どっちにしても親に援助してもらわないといけない、、。」という経済的問題だった。悩むだけ親孝行な子である。私などは社会人になっても実家で上げ膳据え膳で、朝早く出かけて夜遅く帰って来る、土日も何処かに出かけていない。家族にしてみれば間借り人みたいで、外で何をしているかわからない娘だった。それで学生には、「仕事をするには、安心安寧な帰る家・ホームがあることが大切なのよ、特に3年間・初任者時代は。期限を決めて、親御さんに甘えたら？その代わり、個人情報を守りながら、どんな仕事をしているか親さんに話をしあわせて。」と、自分のことは棚に上げてアドバイスをしたりしている。認識の間違いや、お気づきの点がありましたら、ご指摘ください。内容へのご意見・ご感想をお寄せ下さい。連絡先：m.higuchi@oki-u.ac.jp